

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

平成27年度第4・四半期
(平成28年1～3月)



目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（平成 28 年 1 ～3 月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 28 年 3 月）	23
4. 特別調査「中小企業の将来を見据えた事業承継について」	27
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	29

調査の概要

1. 調査時期 平成 28 年 1 月～3 月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	95	89
卸 売 業	29	28
小 売 業	49	46
サ ー ビ ス 業	59	56
建 設 業	39	34
合 計	271	253

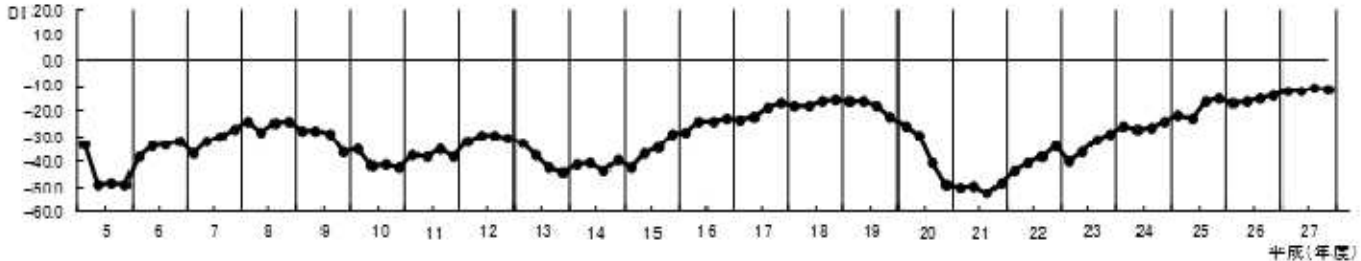
1. 都内中小企業の景況（平成28年1～3月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況、全体として横這い

～製造業はやや厳しさを増し、建設業はわずかに好調感が縮小～

都内中小企業景況・6業種合計DI



業況判断DI(季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合)は-11.7(前期は-10.7)と前期に比べ1.0ポイント悪化した。業種別に見ると、建設業でわずかに好調感が縮小し、製造業でやや厳しさを増した。

来期は、不動産業で業況が上向き、製造業・卸売業で水面下ながら改善すると予想している。

<製造業>

業況はやや厳しさを増した。売上額・受注残・収益はわずかに減少を強めた。価格面では、販売価格は前期同様の低下基調で、原材料価格は多少落ち着きを見せた。

業種別に見ると、「化学工業」は前期並の好調感が続き、「電気機械」はわずかに前期を上回った。「輸送用機械」はかなり好調感が後退し、「精密機械」は大きく水面下に落込んだ。「プラスチック」「一般機械」「建設用金属」「プレス・メッキ」「金属製品」「ゴム製品」「紙・紙加工品」「印刷関連」は幾分悪化が強まり、「食料品」「繊維・衣服」「木材・家具」「皮革関連」はかなり深刻さを増した。

来期の業況は水面下ながら改善するとみている。売上額・受注残・収益は減少が一服すると予想している。

<卸売業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・収益はともに前期並の低迷が続いた。価格面では、販売価格・仕入価格は多少落ち着きを見せた。業種別では、「機械器具」は前期並の好調感が続き、「食料品・飲食料品」はかなり厳しさが和らいだ。一方、「化学製品」は大きく水面下に落ち込み、「建築材料」はやや深刻さを増した。「繊維・衣服」「鉱物・金属材料」は大幅に悪化した。

来期の業況は、水面下ながら改善するとみている。売上額は今期並の低迷が続く、収益は水面下ながら減少に歯止めがかかると予想している。

<小売業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額は幾分減少を強め、収益は前期並の低迷が続いた。価格面では、販売価格はわずかに上昇から下降へと転じ、仕入価格は多少上昇が弱まった。

業種別では、「飲食店」は水面下ながらやや上向いた。一方、「カメラ、時計・眼鏡」「繊維・衣服・身の回り品」はわずかに悪化が強まり、「家電・家庭用機械」は大きく低調感を強めた。

来期の業況は、今期同様の厳しさが続くことと予想している。売上額・収益は持ち直すこととみている。

<サービス業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額・収益は前期並の減少が続いた。価格面では、料金価格は変動なく推移し、材料価格は前期並の上昇が続いた。

業種別に見ると、「情報サービス・調査・広告」は大きく改善し、「自動車整備・駐車場」は水面下ながら幾分持ち直した。「洗濯・理容・美容」は前期同様の厳しさが続いた。

来期の業況は今期同様の厳しさが続くこととみている。売上額・収益はともに水面下ながら改善するとみている。

<建設業>

業況はわずかに好調感が縮小した。売上額は前期同様の増加が続き、受注残・施工高は多少伸び悩み、収益は増減なく推移した。価格面では、請負価格・材料価格はともにやや上昇が弱まった。

業種別に見ると、「総合工事」「設備工事」は前期並の好調感が続き、「職別工事」は幾分好調感が縮小した。

来期の業況は今期並の好調感が続くことと予想している。売上額・受注残・施工高は今期同様の増加が続き、収益は増減なく推移するものとみている。

<不動産業>

業況は前期同様変化なく推移した。売上額・収益はやや伸び悩んだ。価格面では、販売価格はわずかに落ち着きを見せ、仕入価格は前期並の高い水準が続いた。地域別に見ると、「都心」は極端に水面下に落込んだ。

業種別に見ると、「建売・土地売買」は大幅に良化し、「不動産代理・仲介」はわずかに悪化した。

来期の業況は上向くとみている。売上額は堅調に推移し、収益は弱含むと予想している。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I・・・本調査におけるD.Iは季調済D.Iを使用しています。

季調済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方向をみる方法です。